

セーフコミュニティの次期国際認証について

久留米市は、令和5年12月に3回目のセーフコミュニティ国際認証を取得しました。
それに伴い、令和6年度のセーフコミュニティ推進協議会で承認された基本方針に則って、セーフコミュニティのさらなる周知や取組の拡大を図っているところです。
本年度、3回目の認証から2年目に入ったばかりですが、次の認証に向けて対策委員会委員の皆様等のご意見もお伺いし、令和8年度には、セーフコミュニティの次期国際認証についての対応方針を決定していきます。

1 久留米市のセーフコミュニティの現状

(1) これまでの経過

久留米市では、安全安心やまちづくりに関する課題を解決するためのツールとして、セーフコミュニティに着目し、平成23年にセーフコミュニティ取組宣言を行いました。
その後、平成25年に最初の国際認証を取得し、5年に1度の審査を経て、令和5年には3回目の認証を取得したところです。

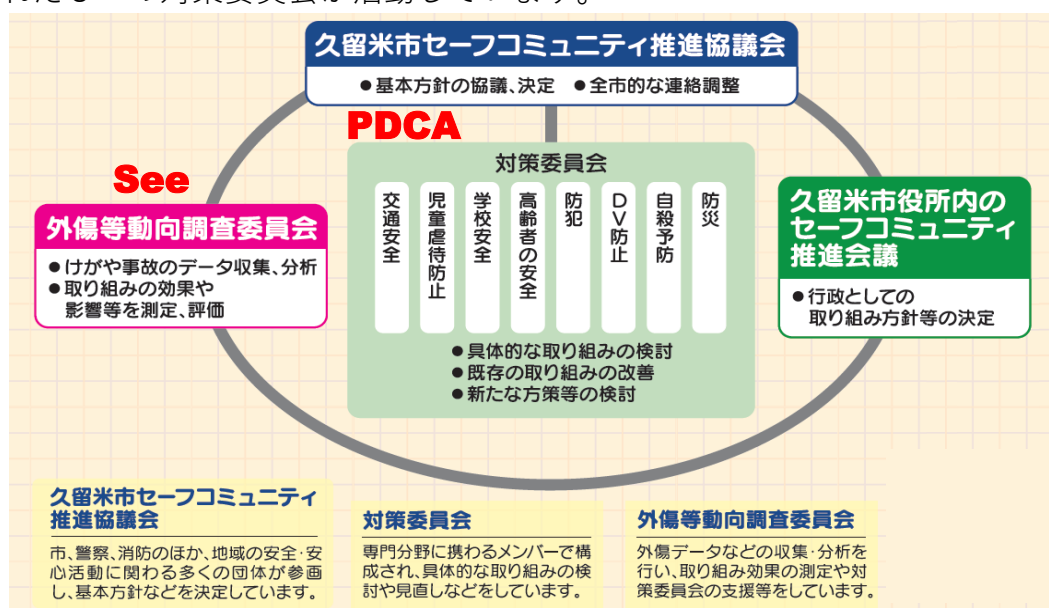


【セーフコミュニティを始めた理由】

- ① 事故、犯罪や暴力事件に対する市民の不安感が高い状況
- ② 客観的なデータに基づいた予防と成果分析による安全安心の向上への期待
- ③ 校区コミュニティ組織、市民活動団体等と連携し、地域が一体となった「協働のまちづくり」の推進

(2) 推進体制

久留米市では、市内 55 団体で構成する推進協議会のもと、重点的な課題を抽出して組織された 8 つの対策委員会が活動しています。



(3) 重点取組分野・項目

様々なデータに基づき、久留米市内で発生しているけがや事故等の状況から、6 分野および 10 の項目を決めて、重点的に取り組んでいます。

重点取組分野	重点取組項目	対策委員会
1 交通安全	① 高齢者の交通事故防止 ② 自転車事故の防止	交通安全対策委員会 (事務局：安全安心推進課)
2 子どもの安全	③ 児童虐待の防止 ④ 学校の安全	児童虐待防止対策委員会 (事務局：家庭子ども相談課) 学校安全対策委員会(事務局：学校教育課)
3 高齢者の安全	⑤ 転倒、溺死溺水の予防 ⑥ 高齢者虐待の防止	高齢者の安全対策委員会 (事務局：長寿支援課)
4 犯罪・暴力の予防	⑦ 犯罪の防止・防犯力の向上 ⑧ DV 防止・早期発見	防犯対策委員会(事務局：安全安心推進課) DV 防止対策委員会 (事務局：男女平等政策課、男女平等推進 C)
5 自殺予防	⑨ 自殺・うつ病の予防	自殺予防対策委員会 (事務局：保健所保健予防課)
6 防災	⑩ 地域防災力の向上	防災対策委員会 (事務局：防災対策課、地域福祉課)

(4) 成果

平成 25 年に最初の国際認証を取得して以来、コロナ禍の影響による数値の変動が見られた時期もありましたが、データに基づいた様々な施策を地域との協働で継続的に取り組んだ結果、各項目の代表的指標において概ね着実に成果が出ています。

対策委員会	重点取組項目	指標	評価	H25 年度 (初回認証)	H30 年度 (再認証)	R5 年度 (3 回目認証)
交通安全	高齢者の交通事故防止	交通事故発生件数 (人口 10 万人あたり)	◎	3,139 件 (1,026 件)	2,125 件 (703 件)	1,322 件 (438 件)
	自転車事故の防止				37.8%減	
児童虐待防止	児童虐待の防止	児童相談件数 ※	◎	997 件	1,786 件	3,423 件
					1.9 倍	
		児童虐待対応件数 ※	◎	170 件	261 件	508 件
					1.9 倍	
学校安全	学校の安全	ケガ発生件数 (全小学校)	◎	1,489 件	1,583 件	1,241 件
					21.6%減	
高齢者の安全	転倒予防	転倒を予防するための対策を行う人の割合	○	62.9%	64.7% (R1 年度)	64.5% (R4 年度)
	高齢者の虐待防止	高齢者虐待の通報件数 ※	○	88 件	100 件	75 件
					高齢者人口は増加 通報件数は横ばい	
防犯	犯罪の防止・防犯力の向上	一般刑法犯認知件数 (人口 10 万人あたり)	△	3,774 件 (1,234 件)	1,881 件 (615 件)	1,971 件 (653 件)
			◎		4.7%増	
DV 防止	DV 防止・早期発見	主訴が DV の相談件数 ※	◎	1,290 件	1,425 件	2,512 件
					1.8 倍	
		他の機関から相談に繋がった件数 ※	○	12 件 (H27 年度)	20 件	15 件
					1.9 倍	
自殺予防	自殺・うつ病の予防	自殺者数	◎	57 人	50 人	47 人
					減少傾向ではあるが 引き続き対策を進める	
防災	地域防災力の向上	校区防災士養成人数	◎	15 人 (H28 年度)	のべ 64 人	のべ 171 人
					2.7 倍	
					11.4 倍	

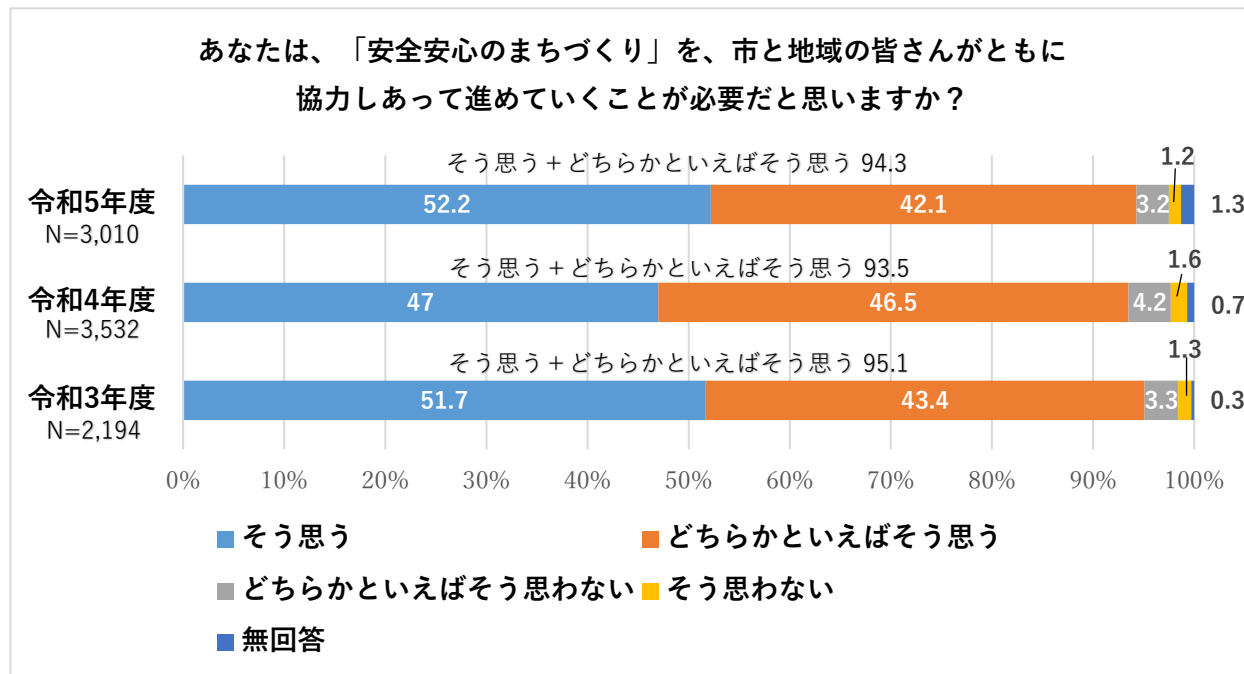
※ 相談窓口の認知度向上や社会的関心の高まりにより、これまで表に出ていなかったケースが相談につながることで、件数が増加している。長期的には減少を目指している。

(5) セーフコミュニティに関する市民の意識調査

市民意識調査やセーフコミュニティ実態調査、くるモニでセーフコミュニティに関する市民の考え方を把握してきました。

① 「安心安全のまちづくり」の協力体制 (市民意識調査)

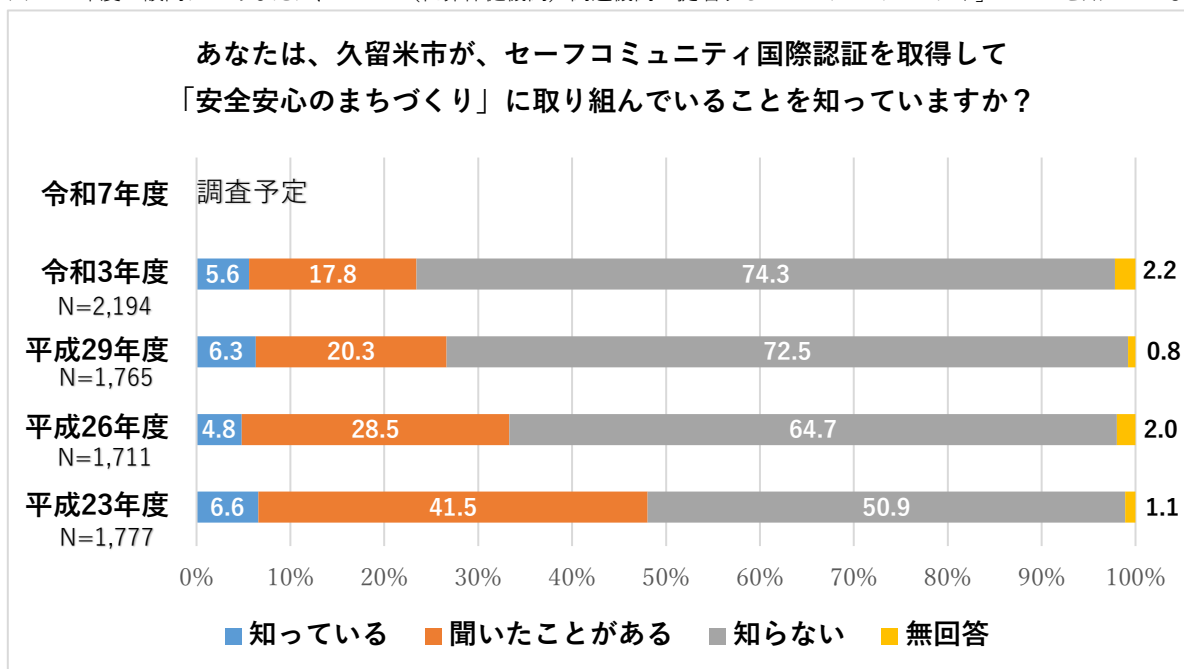
9割を超える市民が、協働による安全安心のまちづくりが必要だと回答しています。



② セーフコミュニティの認知度 (市民意識調査)

1回目の認証取得翌年(H26)の認知度は3割を超えていましたが、以降低下しています。

※H23年度の設問は「あなたは、WHO（世界保健機関）関連機関が提唱する「セーフコミュニティ」のことを知っていますか。」



2 今後について

「安全安心のまちづくり」については、セーフコミュニティの仕組みを活用し、一定の成果をあげ、協働での「安全安心のまちづくり」に対する市民の意識も高い状況にあります。今後も、協働での「安全安心のまちづくり」を継続して取り組んでいきます。

このような中、令和10年度にセーフコミュニティの国際認証が4回目の更新時期を迎えますので、次期国際認証について、令和8年度には対応方針を定めることができるように進めていきます。

対策委員会の委員の皆様には、今後、アンケート等を通してご意見を伺っていきたいと考えていますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

◇今後の大まかなスケジュール

	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
事 務 局	・ 市民意識調査 ・ 他自治体調査 ・ 評価・検討案の策定	対応 方針 の 決 定	事前 指導	認証 審査・ 認証式
各対策委員会	対策委員へのアンケート等			
推進協議会	・ 推進協議会での協議			

久留米市のセーフコミュニティの取組・国際認証に関するアンケート

所属団体（部署）名

氏 名

久留米市は、令和 10 年度に 4 回目の国際認証の更新時期を迎えます。今後の対応方針を決定していくにあたり、これまでのセーフコミュニティの取組について総括・検証し、国際認証の取得について検討するため、委員の皆様のご意見をお伺いします。

※回答が難しい設問は、未回答で結構です。

F1 委員になって何年目ですか。（あてはまる番号を1つだけ選択）

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 1年未満 | 2 1年以上～3年未満 |
| 3 3年以上～5年未満 | 4 5年以上 |

F2 所属を教えてください。（あてはまる番号をいくつでも選択可）

- | | | |
|--------------------|----------|--------|
| 1 校区コミュニティ組織関連 | 2 市民活動団体 | 3 行政関連 |
| 4 その他（具体的に： _____） | | |

F3 現在、所属している対策委員会名を教えてください。

（複数所属している場合は、全て選択）

- | | | | |
|--------|-----------|----------|----------|
| 1 交通安全 | 2 児童虐待防止 | 3 学校安全 | 4 高齢者の安全 |
| 5 防犯対策 | 6 DV 防止対策 | 7 自殺予防対策 | 8 防災対策 |

F4 これまで、国際認証の審査や事前指導を経験したことがありますか。

（あてはまる番号を1つだけ選択）

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 経験したことがある | 2 経験したことがない |
|-------------|-------------|

1 久留米市の取組について

問1 久留米市全体でセーフコミュニティに取り組んできた成果は何だと考えますか。

（あてはまる番号をいくつでも選択可）

- | |
|--|
| 1 重点取組分野での安全安心の取組が向上した |
| 2 S+PDCA サイクルを活用し、客観的なデータを基に、安全安心の取組を進めることができた |
| 3 セーフコミュニティの取組を通じて、他の団体等と協働で取り組むことができた |
| 4 セーフコミュニティを通じて、「予防」の重要性を市民に伝えることができ、市民の安全安心の取組が向上した |
| 5 その他（具体的に： _____） |

2 国際認証について

問2 国際認証を取得することの良い点は何だと思いますか。

(あてはまる番号をいくつでも選択可)

- 1 安全安心のまちづくりに取り組むシンボルとして、「セーフコミュニティ」という言葉を使ってPRができる
- 2 国際認証を取得した都市として、内外に広くアピールできる
- 3 取組に対して、第三者による客観的な評価がされる
- 4 海外の推進自治体の取組を参考にでき、刺激を受けることができる
- 5 国際認証という目標があることによって、活動の励みとなる
- 6 その他（具体的に： _____）

問3 国際認証を取得することの良くない点は何だと思いますか。

(あてはまる番号をいくつでも選択可)

- 1 国際認証の審査や事前指導を受ける年は、プレゼン資料の準備などの労力がかかる
- 2 国際認証の審査や事前指導を受ける年は、プレゼン資料等の協議を行うため、安全安心のまちづくりに関する話し合いが減ってしまう
- 3 国際認証は、負担や費用がかかる割には、安全安心のまちづくりを市民に広げるという効果は期待できない
- 4 国際認証は、認証を取得すること自体が目的となりがちである
- 5 国際認証を取得すると、安全安心のまちづくりの取組が、重点分野だけに限られてしまう
- 6 その他（具体的に： _____）

問4 【問2、問3を踏まえてお答えください。】今後も、協働による安全安心のまちづくりを進めていきますが、国際認証を取得する必要があると思いますか。

(あてはまる番号を1つだけ選択)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 必要である | 2 どちらかといえば必要である |
| 3 どちらかといえば必要ではない | 4 必要ではない |
| 5 必要かどうか分からない | |

その理由は何ですか。

3 対策委員会の運営について

問5 これまでの対策委員会の運営について感じていることは何ですか。
(あてはまる番号をいくつでも選択可)

- 1 委員会でのワークショップや合同対策委員会でのグループワークなど、活発な協議を行うことができた
- 2 委員会には、様々な立場の人が参加しており、自分が行っている分野のまちづくりについて勉強することができた
- 3 委員会には、様々な立場の人が参加しており、つながりができた
- 4 セーフコミュニティの対策委員会と似たような会議があり、いずれにも出席せねばならず、負担が重い
- 5 委員会の開催が少なく、深い議論ができない
- 6 委員会の開催が少なく、委員同士のつながりができない
- 7 行政主導の委員会となっており、委員の活発な意見が出されていない
- 8 対策委員会のメンバーが変わるので、取組の継続性や質が担保できない
- 9 その他（具体的に： _____）

問6 まちづくりに関する話し合いの機会を増やすため、対策委員会の開催回数が増えても参加できますか。（あてはまる番号を1つだけ選択）

- 1 回数が増えても参加できる
- 2 これまで以上に回数が増えたら参加できない

自由記述欄

セーフコミュニティの取組に関する様々なご意見の他、SC 事務局に対する質問等もお書きください。

書いていただいたご質問につきましては、個別の回答は行わず、アンケートの集計結果と併せて次回以降の対策委員会で共有させていただきますので、ご了承ください。

◆アンケートには、電子申請からも回答していただけます。

スマートフォン等で下記 QR コードを読み取り、ご回答ください。

回答〆切 〇月〇日（〇）までをお願いします。

A blue square placeholder for a QR code, containing the text "QR" in white.